

17 献血

少子高齢化の進行に伴う献血可能人口の減少や若年層の献血離れ等の影響もあり、献血者数は全国的に減少傾向にある。

また、輸血用血液製剤については国内の献血により供給されているが、アルブミン製剤など血漿分画製剤の原料においては、いまだに多くを外国からの輸入に依存している状況である。

これらのことから、血液製剤の安全性の向上、献血による国内自給の原則、適正使用の推進、血液事業運営に係る公正の確保と透明性の向上を基本理念とした「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が平成15年7月に施行された。

この法律に基づき、高知県赤十字血液センター、市町村、民間ボランティア等と連携し、若年層をはじめとする県民各層への献血の普及・啓発活動を行うとともに、地域での献血組織の育成強化を図る。

(1) 献血者数

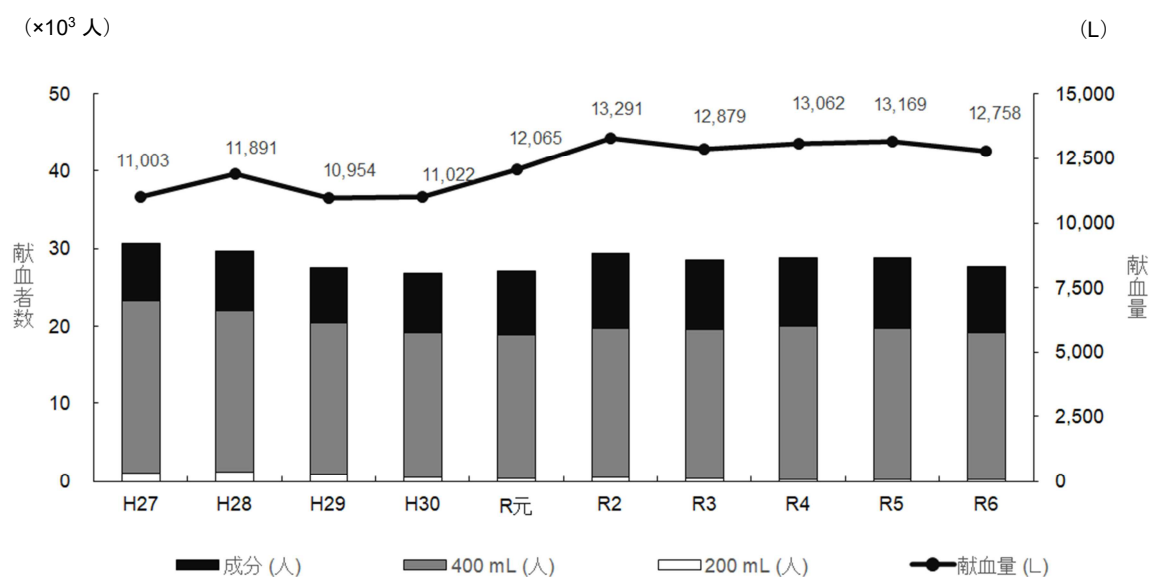
令和6年度の献血者数は27,710人であり、前年度より4.0%減、献血量は12,758リットルであり3.1%減であった。

なお、過去10年間の献血者数及び献血量は下記のとおりである。

○年度別献血状況

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	前年比	構成比	R6年度 目標値
200 mL (人)	1,069	1,146	991	458	404	493	421	280	257	210	81.7%	0.8%	264
400 mL (人)	22,308	20,904	19,394	18,632	18,542	19,227	19,155	19,651	19,480	18,936	97.2%	68.3%	19,615
成分 (人)	7,278	7,657	7,137	7,842	8,203	9,707	9,048	8,966	9,117	8,564	93.9%	30.9%	8,582
計 (人)	30,655	29,707	27,522	26,932	27,149	29,427	28,624	28,897	28,854	27,710	96.0%		28,461
献血量 (L)	11,003	11,891	10,954	11,022	12,065	13,291	12,879	13,062	13,169	12,758	96.9%		12,742

○献血者数と献血量の推移



(2) 献血適格率等の状況

令和6年度の献血申込者のうち、献血ができなかった人数は2,202人で、申込者のうち7.4%を占めた。

そのうち、血液比重の不足により献血ができなかった申込者の男女比は、男性1.0%に対して女性8.0%となっているが、これは男女の赤血球数の違いによる影響が大きい。

○令和6年度の献血申込者数と献血ができなかった人数

	申込者数	献血ができなかった者						献血者数		
		比重不足		その他		計		人数	構成比(%)	
		人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)			
男 (人)	200mL	15	0	0.0	6	40.0	6	40.0	9	60.0
	400mL	13,739	138	1.0	536	3.9	674	4.9	13,065	95.1
	血漿	4,462	42	0.9	91	2.0	133	3.0	4,329	97.0
	血小板	2,018	24	1.2	91	4.5	115	5.7	1,903	94.3
	計	20,234	204	1.0	724	3.6	928	4.6	19,306	95.4
女 (人)	200mL	248	11	4.4	36	14.5	47	19.0	201	81.0
	400mL	6,876	622	9.0	383	5.6	1,005	14.6	5,871	85.4
	血漿	2,422	117	4.8	79	3.3	196	8.1	2,226	91.9
	血小板	132	21	15.9	5	3.8	26	19.7	106	80.3
	計	9,678	771	8.0	503	5.2	1,274	13.2	8,404	86.8
合計 (人)	200mL	263	11	4.2	42	16.0	53	20.2	210	79.8
	400mL	20,615	760	3.7	919	4.5	1,679	8.1	18,936	91.9
	血漿	6,884	159	2.3	170	2.5	329	4.8	6,555	95.2
	血小板	2,150	45	2.1	96	4.5	141	6.6	2,009	93.4
	計	29,912	975	3.3	1,227	4.1	2,202	7.4	27,710	92.6

(3) 性別・年代別からみた献血者の状況

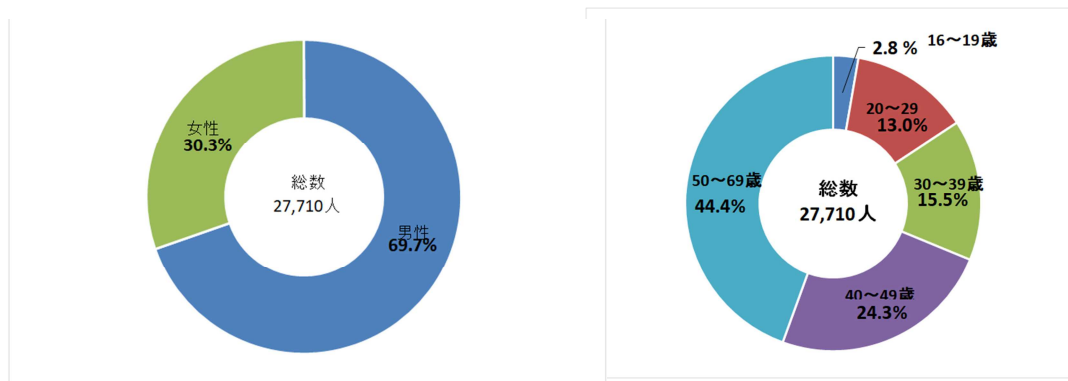
献血者の性別構成割合は、男性 69.7%、女性 30.3%となっている。また、年代別で見ると、50～69歳代の献血者の割合が 44.4%と、多くを占めている。

○令和6年度 性別・年代別献血者数

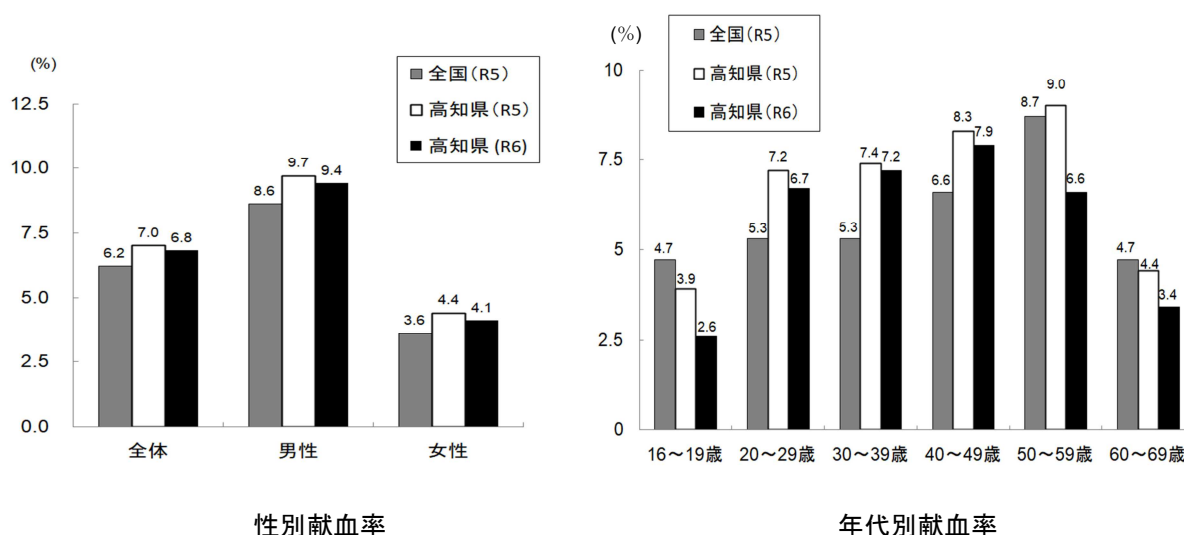
(単位:人)

	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～69歳		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
200 mL	6	61	0	44	0	17	2	27	1	52	9	201	210
400 mL	388	235	1,737	895	2,142	936	3,154	1,306	5,644	2,499	13,065	5,871	18,936
血漿	33	24	417	286	495	440	1,099	548	2,285	928	4,329	2,226	6,555
血小板	14	0	221	8	216	37	569	38	883	23	1,903	106	2,009
合計	441	320	2,375	1,233	2,853	1,430	4,824	1,919	8,813	3,502	19,306	8,404	27,710

○令和6年度 性別、年代別献血者構成割合



○令和5年度及び令和6年度の性別、年代別献血率



(注1) 令和5年度(令和5年4月から令和6年3月)の献血者による献血率は、日本赤十字社血液事業「血液事業年度報(令和5年度)」掲載データを利用

(注2) 本県における令和6年度の献血率の算定に使用した人口は、総務省HPにて公開中の「令和6年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口(都道府県別)(総計)」を使用。なお、16～19歳の献血率は、15～19歳人口を用いて算出

(注3) 令和6年の献血率(全国平均値)は、データが公表されていないため掲載なし

(4) 血液製剤供給量の推移

令和6年度は成分製剤で28,156本、また200mL換算で97,855本供給しており、昨年度より供給本数が減少している。

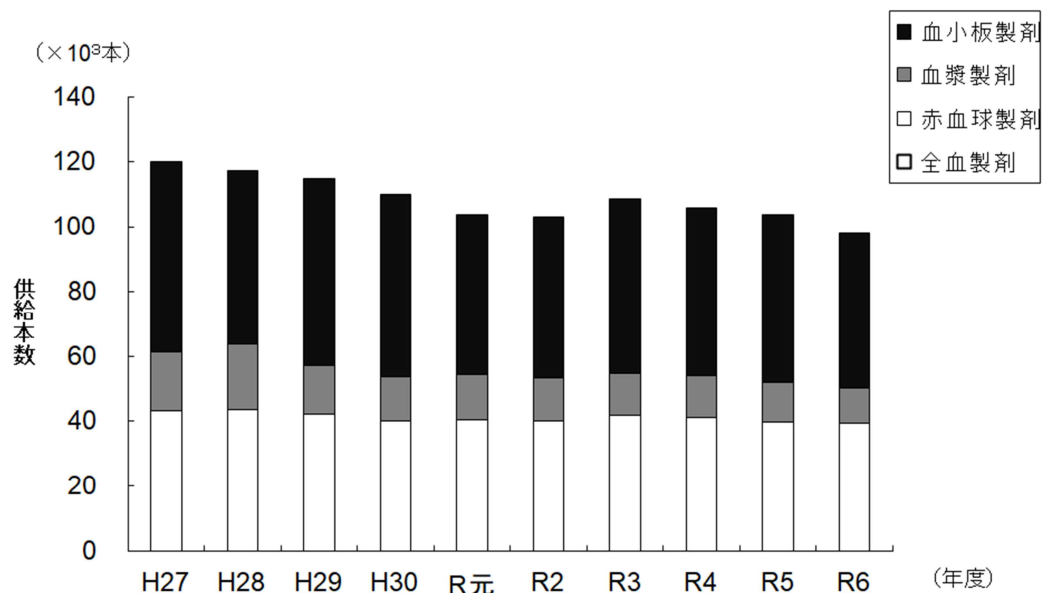
○県内における血液製剤の供給状況

(上段:200mL換算本数、下段:実本数)

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
全血製剤	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
赤血球製剤	42,984 (21,944)	43,406 (21,997)	42,123 (21,387)	39,894 (20,214)	40,320 (20,418)	40,182 (20,270)	41,910 (21,085)	41,132 (20,667)	39,776 (19,948)	39,201 (19,657)
血漿製剤	18,320 (4,976)	20,254 (5,303)	15,269 (5,330)	13,940 (4,893)	14,321 (5,016)	13,308 (4,702)	13,017 (4,586)	13,010 (4,544)	12,227 (4,193)	11,004 (3,734)
血小板製剤	58,560 (5,856)	53,561 (5,358)	57,460 (5,746)	56,026 (5,634)	49,200 (4,920)	49,470 (4,947)	53,700 (5,370)	51,590 (5,159)	51,735 (5,174)	47,650 (4,765)
合計	119,864 (32,776)	117,221 (32,658)	114,852 (32,463)	109,860 (30,741)	103,841 (30,354)	102,960 (29,919)	108,627 (31,041)	105,732 (30,370)	103,738 (29,315)	97,855 (28,156)

(注1)換算本数は、400mL由来製剤=×2、2単位=×2、5単位=×5、10単位=×10、15単位=×15、20単位=×20により算出

(注2)令和6年度データは、日本赤十字社ホームページに公表の「全国血液センター供給本数速報(II)令和6年4月~令和7年3月分累計」より算出



200 mL 換算供給本数の経年推移